

株式会社 都市環境 環境経営レポート

対象期間（2024年6月～2025年5月）編



2025年 9月1日発行（2024年度版）

もくじ

1	組織の概要	1
2	認証・登録対象範囲	1
3	情報開示項目	1～3
4	環境経営方針	4
5	環境経営目標とその実績及び評価	5～10
6	環境経営計画及びその取組結果とその評価	11～12
7	環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	13
8	代表者による全体評価と見直し・指示の結果	14
9	次年度の環境経営目標	14
10	次年度の環境経営計画	14

1. 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者

株式会社都市環境 代表取締役 齋藤 高照

(2) 所在地

本社・資材置場 〒957-0062 新潟県 新発田市 富塚町 2丁目1002番地

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先 : 電話 0254-22-6337 FAX 0254-23-6308

環境管理責任者 常務取締役 齋藤 剛寛 E-mail saito-t@toshikankyo.com

事務局担当者 専務取締役 小林 勝彦 E-mail kobayashi@toshikankyo.com

(4) 事業内容

ア 浄化槽清掃業、イ 浄化槽保守点検業、ウ 産業廃棄物収集運搬業、エ 一般廃棄物収集運搬業、オ 一般建設業(土木、とび・土工、管、しゅんせつ、機械器具設置、解体、電気工事業)

カ 下水道処理施設管理業、キ 工業薬品の販売、ク 建築物貯水槽清掃業、

ケ 建築物排水管清掃業、コ 道路側溝等清掃業務、サ 無人航空機による農薬散布業務

※ 建設業の事業活動において、2023年度より新たに【**超高圧水による研り業務**】を開始。

2. 認証・登録対象範囲

株式会社都市環境の全組織、全活動

3. 情報開示項目

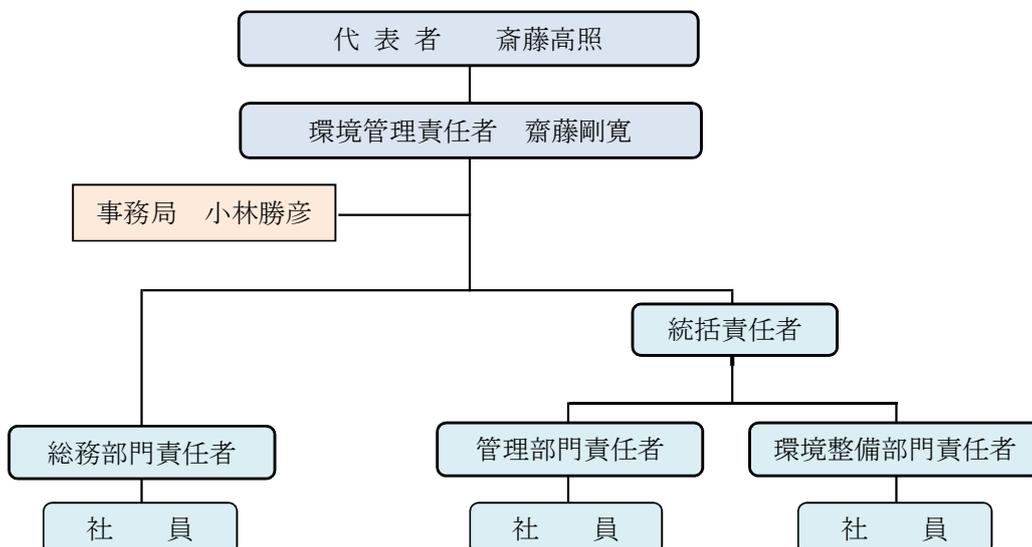
(1) 法人設立年月日 : 1983年9月28日(創業 1958年)

(2) 資本金 : 1,500 万円

(3) 事業規模

活動規模	単位	2022年度	2023年度	2024年度
従業員数	人	67	70	69
売上高	百万円	712	746	736
本社床面積	m ²	283.5	283.5	283.5

(4) EA21 実施体制図



(5) 許可の内容

① 産業廃棄物収集運搬業

【新潟県】

許可番号	01501034436		
許可年月日～有効期限	2022年10月17日～2028年9月30日（優良産業廃棄物処理業者）		
事業計画の概要	産業廃棄物の収集運搬		
事業の範囲	収集・運搬（積替え・保管を除く。） 廃プラスチック類、木くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類（以上、石綿含有産業廃棄物を除く。）、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず（以上、水銀使用製品産業廃棄物を含み、水銀含有ばいじん等を除く。）		
施設等の状況	強力吸引車 12t 2台	コンテナ車 4t 1台	
	強力吸引車 6t 1台	バキューム車 3t 2台	
	強力吸引車 5t 1台	塵芥車 2t 1台	
	強力吸引車 4t 1台	トラッククレーン車 2t 1台	
	トラック車 8t 1台	ダンプトラック車 2t 1台	
	トラック車 5t 1台	普通貨物車 1t 2台	
	トラック車 3t 1台		
運搬実績（年度は6月～翌年5月）	2024年度	2,418.7 t	

【山形県】

許可番号	0609034436		
許可年月日～有効期限	2022年5月31日～2028年5月30日（優良産業廃棄物処理業者）		
事業計画の概要	産業廃棄物の収集運搬		
事業の範囲	収集・運搬（積替え・保管なし。） 汚泥（特別管理産業廃棄物であるものを除く。）		
施設等の状況	強力吸引車 12t 2台	強力吸引車 4t 1台	
	強力吸引車 6t 1台	トラッククレーン車 2t 1台	
	強力吸引車 5t 1台		
運搬実績（年度は6月～翌年5月）	2024年度	0.0 t	

② 浄化槽保守点検業

【新潟県】

登録番号	(登) 60 第 203 号
許可年月日～有効期限	2021年1月1日～2025年12月31日
営業区域	新発田市、聖籠町

【新潟市】

登録番号	(登) 15 第 1 号
許可年月日～有効期限	2023年4月18日～2028年4月17日

③ 浄化槽清掃業【新発田市】

許可番号	環 第 1481号-2
許可年月日～有効期限	2024年12月1日～2027年11月30日

④ 一般廃棄物処理業【新発田市】

許可番号	環 第 1933 号 - 2
許可年月日～有効期限	2024年4月1日～2026年3月31日
取扱廃棄物の種類	浄化槽汚泥 収集・運搬
施設等の状況	バキューム車 3t 5台
運搬実績（年度は6月～翌年5月）	2024年度 7,536.9 m ³

⑤ 一般廃棄物処理業【新発田市】

許可番号	環 第 672 号 - 2
許可年月日～有効期限	2025年8月1日～2027年7月31日
事業計画の概要	一般廃棄物の収集運搬
取扱廃棄物の種類	事業活動により生じる一般廃棄物及び一般家庭から一時的に大量に出るごみ 収集・運搬(積替え・保管を含む。)
施設等の状況	積替え・保管面積 37.6 m ² 保管上限量 72.4 m ³ コンテナ車 4t 1台 トラッククレーン車 2t 1台 ダンプトラック車 2t 1台 塵芥車 2t 1台
運搬実績(年度は6月～翌年5月)	2024 年度 18.4 t

⑥ 一般建設業【新潟県】

許可番号	第 21631 号
許可年月日～有効期限	2022年1月17日～2026年1月16日
建設業の種類	土木、とび・土工、管、しゅんせつ、機械器具設置、電気、解体工事業
工事実績(年度は6月～翌年5月)	2024 年度 91 件

注) 1. 年度とは当社の会計年度(6月～翌年5月)である。

4. 環境経営方針

株式会社都市環境 環境経営方針

<環境理念>

株式会社都市環境は、飯豊連峰を源とする清流加治川の恩恵を受けた緑豊かなこの地で、『人とより良い環境の共生を求めて』をモットーに、浄化槽保守点検業務、公共下水道関連業務、廃棄物収集運搬業務などの環境関連業務を営んでおります。企業としての活動が二酸化炭素の排出などにより地域及び地球環境に一定の影響を与えていること及び当社の事業活動を踏まえ、温暖化の防止や水環境の保全に積極的に取り組み、持続可能な循環型社会を目指して以下の項目を継続的に取り組んでいくことを誓約します。

<行動指針>

1. 次の事項について環境経営目標・環境経営計画を定め、活動を行うとともに環境経営の継続的な改善に努めます。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
電力の消費や業務車両の燃料消費などに伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - ② 廃棄物排出量の削減
廃棄物排出量の抑制に努めます。
 - ③ 総排水量の削減
水使用量の節約に努めます。
 - ④ 化学物質の適正使用及び管理
化学物質の適正使用及び管理に努めます。
 - ⑤ 業務を通じた環境活動の推進
受託廃棄物のリサイクル率の向上、建設現場における環境への配慮、水質浄化業務を推進します。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
3. 本環境経営方針は、全ての従業員に周知します。

制定日：2014年6月1日

改定日：2024年6月1日

代表取締役 齋藤高照

5. 環境経営目標とその実績及び評価

(1) 環境経営目標

- ・ 電力に係る二酸化炭素排出係数は東北電力の2021年度調整後排出係数 0.488kg-CO₂/kwhを使用。
- ・ 各年度の目標値の%は、対基準年実績値比です。

項目	単位	基準年実績 (2022年度)	目標値 (△ 向上・▽ 削減)			
			2023年度	2024年度	2025年度	
			電力使用量の削減	kwh	48,012	48,012
	削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%	
二酸化炭素排出量の削減	ガソリン車両	km/ℓ	13.08	13.15	13.15	13.15
		向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%
	全体	km/ℓ	(4.01)	(4.03)	(4.03)	(4.03)
		向上率				
	バキューム車	km/ℓ	5.77	5.80	5.80	5.80
		向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%
	強力吸引車	km/ℓ	2.15	2.16	2.16	2.16
		向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%
	高圧洗浄車	km/ℓ	2.94	2.95	2.95	2.95
		向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%
	他 作業車	km/ℓ	6.23	6.26	6.26	6.26
		向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	299,361	-	-	-	
水道使用量の削減	全体	m ³	(560.5)	(560.5)	(560.5)	(560.5)
		削減率				
	事務所	m ³	258.3	258.3	258.3	258.3
	削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%	
作業用	m ³	302.2	302.2	302.2	302.2	
	削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%	
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進	再資源化率	61.2	61.7	62.2	62.7	
	%		△ 0.5%	△ 1.0%	△ 1.5%	
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進	再資源化率	61.2	61.7	62.2	62.7	
	%		△ 0.5%	△ 1.0%	△ 1.5%	
可燃一般廃棄物の排出量の削減	kg	1,483	1,483	1,483	1,483	
	削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%	
資格取得の推進	取得者数(人)	5	3	3	3	

- 注) 1. 化学物質は少量ため目標設定はせず、使用量の把握と適正な管理に努める。
 2. 年度とは当社の会計年度(6月～翌年5月)である。
 3. 二酸化炭素総排出量は灯油・LPGを含む。
 4. 建設廃棄物とその他の産業廃棄物を区分して管理することは困難なため、自社排出産業廃棄物として再資源化に取り組む。
 5. 建設現場については目標設定せず、環境に配慮した工事の施工に努める。
 6. グリーン購入については目標設定せず、今後も継続して購入に努める。
 7. 基準実績値とは、2022年度(6月～翌年5月)である。

(2) 環境経営目標と実績 (対象期間2024年6月～2025年5月)

- ・電力に係る二酸化炭素排出係数は東北電力の2021年度調整後排出係数 0.488kg-CO₂/kwhを使用。
- ・目標値の%は、対基準年実績値比、実績値の%は、対目標値比です。

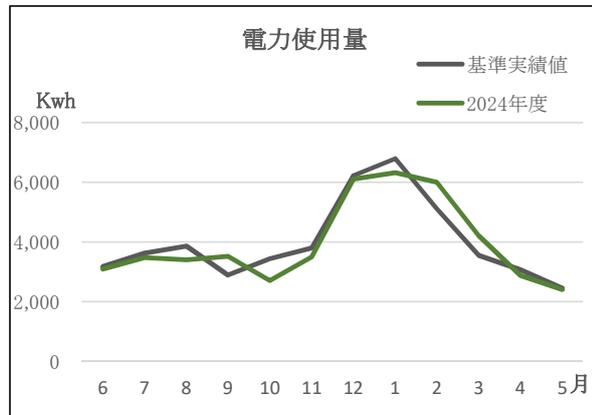
項目		単位	基準年実績値 (2022年度)	目標値：△・▽：対基準実績値の向上・削減 実績値：△・▽：向上・削減 ▲・▼：増加・低下 実績評価：○ 目標達成 × 目標未達成				
				目標値	実績値	実績評価		
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	kwh	48,012	48,012	47,641	○		
		削減率		▽ 0.0%	▽ 0.8%			
	ガソリン車両	km/ℓ	13.08	13.15	12.74	×		
		向上率		△ 0.5%	▼ 3.1%			
		走行距離 km	417,188	-	415,103		-	
		燃料使用量 ℓ	31,892	-	32,595			
	全体	km/ℓ	(4.01)	(4.03)	4.27	-		
		向上率			△ 6.0%			
		走行距離 km	308,735	-	302,757			
		燃料使用量 ℓ	77,092	-	70,842			
		バキューム車	km/ℓ	5.77	5.80		6.05	○
			向上率		△ 0.5%		△ 4.3%	
	走行距離 km		118,232	-	112,979	-		
	燃料使用量 ℓ		20,488	-	18,678			
	強力吸引車	km/ℓ	2.15	2.16	1.90	×		
		向上率		△ 0.5%	▼ 12.0%			
		走行距離 km	67,098	-	55,828		-	
	燃料使用量 ℓ	31,260	-	29,350				
	高压洗浄車	km/ℓ	2.94	2.95	4.54	○		
		向上率		△ 0.5%	△ 53.7%			
走行距離 km		30,748	-	35,105	-			
燃料使用量 ℓ	10,471	-	7,730					
他 作業車	km/ℓ	6.23	6.26	6.55	○			
	向上率		△ 0.5%	△ 4.7%				
	走行距離 km	92,657	-	98,845		-		
燃料使用量 ℓ	14,873	-	15,084					
二酸化炭素総排出量		kg-CO ₂	299,361	-	284,974	-		
					▽ 4.8%			
水道使用量の削減	全体	m ³	(560.5)	(560.5)	(539.5)	-		
		削減率			▽ 3.7%			
	事務所	m ³	258.3	258.3	242.5		○	
		削減率		▽ 0.0%	▽ 6.1%			
作業用	m ³	302.2	302.2	297.0	○			
	削減率		▽ 0.0%	▽ 1.7%				
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進		再資源化率 %	61.2	62.2	60.0	×		
				△ 1.0%	▼ 2.2%			
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進		再資源化率 %	61.2	62.2	74.4	○		
				△ 1.0%	△ 12.2%			
可燃一般廃棄物の排出量の削減		kg 削減率	1,483	1,483	1,440	○		
				▽ 0.0%	▽ 2.9%			
資格取得の推進		取得者数(人)	5	3	3	○		

(3) 環境経営目標と実績の評価

対象期間(2023年6月から2024年5月)の環境経営目標の実績は、以下のとおりです。
 なお、以降記述する基準年実績値とは、2022年度の実績値を示す。

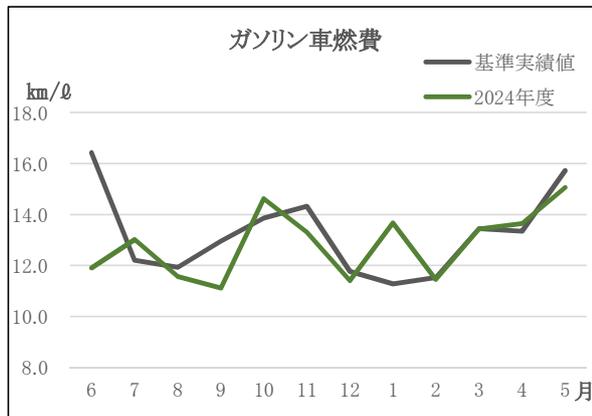
1) 電力使用量の削減

環境経営目標は、基準年実績値と同値とし48,012kwh以下と設定した。
 実績では47,641kwhで対目標値比 0.8%の削減となり、目標を達成した。
 空調機器の更新入替えが、削減の要因と思われる。



2) ガソリン車両の燃費向上

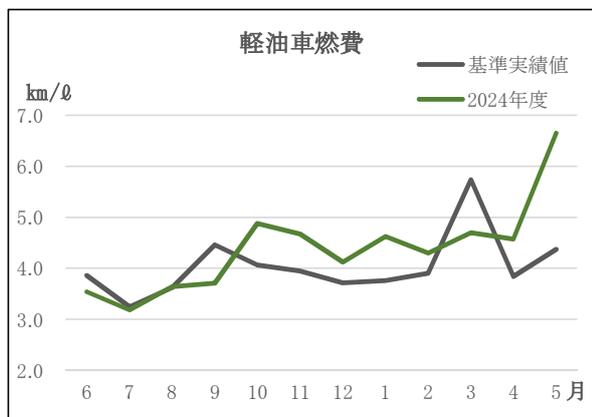
環境経営目標は、基準年実績値を基に13.08 km/ℓの0.5%向上で13.15 km/ℓ以上と設定したが、実績は、対目標値比 3.1%低下の12.74 km/ℓと目標を達成できなかった。
 また、走行距離と燃料使用量を基準年実績値と比較すると、走行距離で2,086 km (0.5%)の減少、燃料使用量では703.6ℓ (2.2%)の増加と走行距離の減少に対して燃料使用量の増加となっている。



昨年度以降の作業車両の増車や、営業車のハイブリット車からガソリン車への入替えも、影響したと思われる。

3) 軽油車両の燃費向上

軽油車両全体についての燃費向上は、環境経営目標に設定していないが、基準年実績値としては、4.03 km/ℓとなっている。
 実績は、対目標値比 6.0%向上の4.27 km/ℓであった。
 詳細については、後記に各車種毎で記しますが、強力吸引車のみが燃費が低下したものの、他の軽油車両の燃費向上が大きく影響した結果となった。



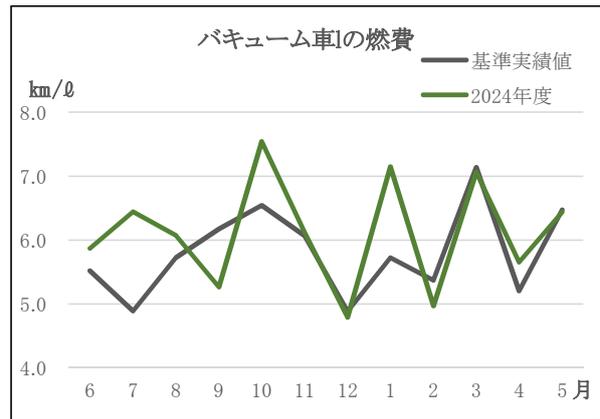
走行距離と燃料使用量を基準年実績値と比較すると、走行距離で5,978km (1.9%)、燃料使用量では6,250ℓ (8.1%)と、共に減少となっている。

環境経営目標では、4種類の各車種毎に目標を設定し、其々の結果については次頁のとおりです。

3) -1 バキューム車の燃費向上

環境経営目標は、基準年実績値5.77km/ℓの0.5%向上で5.80km/ℓ以上と設定し、実績は、対目標値比4.3%向上の6.05km/ℓと目標を達成した。

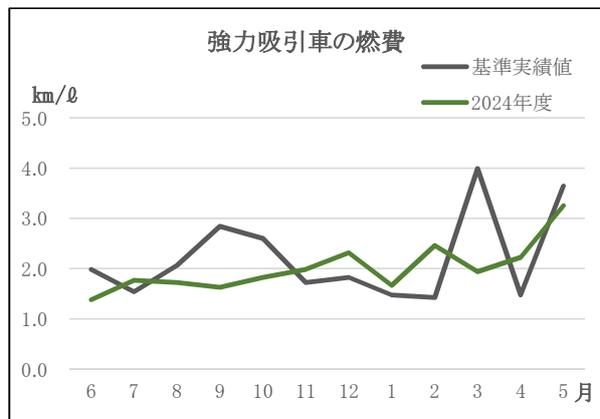
走行距離と燃料使用量を基準年実績値と比較すると、走行距離は5,253km(4.5%)、燃料使用量では1,809ℓ(8.8%)と共に減少となっている。



3) -2 強力吸引車の燃費向上

環境経営目標は、基準年実績値2.15km/ℓの0.5%向上で2.16km/ℓ以上と設定し、実績は、対目標値比12.0%低下の1.90km/ℓと目標を達成できなかった。

走行距離と燃料使用量を基準年実績値と比較すると、走行距離で11,270km(16.8%)、燃料使用量では1,910ℓ(6.1%)と、共に減少となっている。

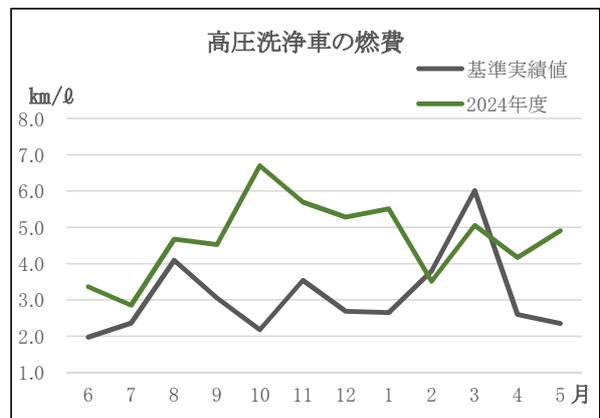


3) -3 高圧洗浄車の燃費向上

環境経営目標は、基準年実績値2.94km/ℓの0.5%向上で2.95km/ℓ以上と設定し、実績は、対目標値比53.7%向上の4.54km/ℓと目標を達成した。

走行距離と燃料使用量を基準年実績値と比較すると、走行距離で4,357km(14.2%)の増加に対し、燃料使用量では2,741ℓ(26.2%)の減少となっている。

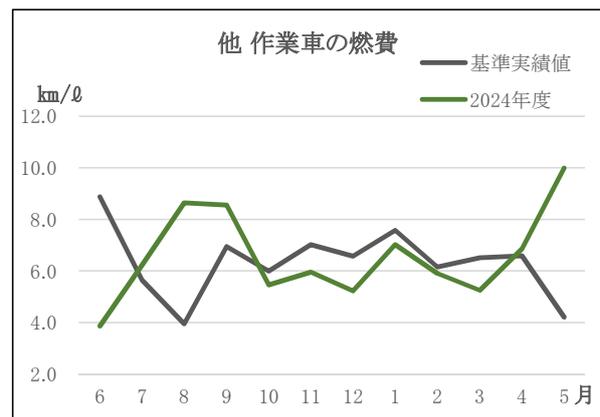
軽油車両全体の燃費向上に、貢献した結果となった。



3) -4 他 作業車の燃費向上

環境経営目標は、基準年実績値6.23km/ℓの0.5%向上で6.26km/ℓ以上と設定し、実績は、対目標値比4.7%向上の6.55km/ℓと目標を達成することができた。

走行距離と燃料使用量を基準年実績値と比較すると、走行距離で6,188km(6.7%)、燃料使用量では211ℓ(1.4%)と、共に増加となっているが、結果的には燃費向上に繋がった。



前頁の3) - 1 から3) - 3 の車両については、作業時もエンジンを動力源とするために作業条件に影響を受けるため、燃費の向上や二酸化炭素の排出量の削減に対する取組み方に苦慮している。

4) 二酸化炭素総排出量

(単位: kg)

環境経営目標に設定はしていないが、右表に項目毎の実績を示す。
 車両燃料のガソリンと暖房用の灯油で使用量が増加したが、全体的には4.8%減少の284,974kg-CO₂であった。
 総排出量の6割以上を占める車両燃料の軽油の使用量の減少が排出量に繋がった。

二酸化炭素排出由来項目	基準実績値	2024年度	全体比	(▲増 ▼減)
電力	23,430	23,249	8.2 %	▽ 0.8 %
ガソリン	73,989	75,621	26.5 %	▲ 2.2 %
軽油	198,896	182,772	64.1 %	▽ 8.1 %
灯油	2,642	3,113	1.1 %	▲ 17.8 %
LPG	404	219	0.1 %	▽ 45.9 %
総排出量	299,361	284,974		▽ 4.8 %

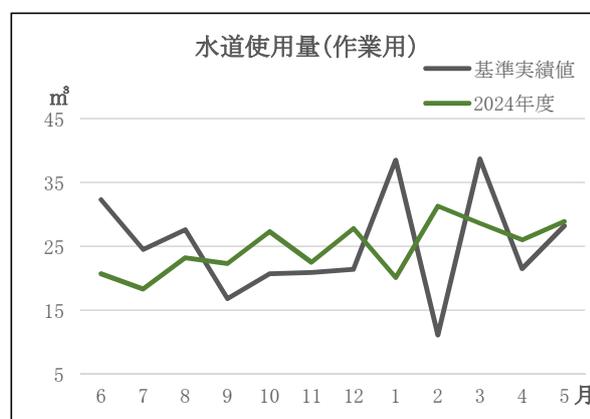
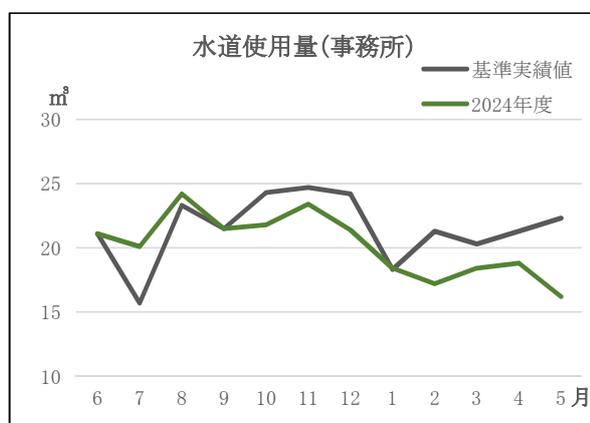
5) 水道使用量の削減

環境経営目標は、基準年実績値と同値とし事務所は258.3m³以下、作業用を302.2m³以下と設定した。

実績は、事務所で対目標値比 6.1%削減の242.5 m³、作業用では対目標値比 1.7%削減の297.0 m³と目標を達成した。

全体では、基準年実績値と比較して3.7%削減の539.5 m³となった。

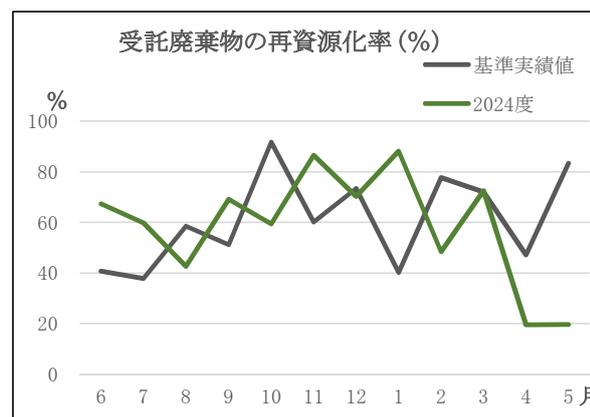
作業用の用水として地下水揚水ポンプを活用することによる水道使用量の削減に、引続き取り組むと共に、次年度より地下水についても使用量の把握に努めることとする。



6) 受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進

受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の環境経営目標は、基準実績値の再資源化率61.2%に対し、1.0%向上の62.2%の再資源化を図ることを目標と設定し、実績では2.2%低下の60.0%で目標を達成できなかった。

4月以降、中間処理業者の処理・処分の形態の変化が、再資源化の推進に影響している。

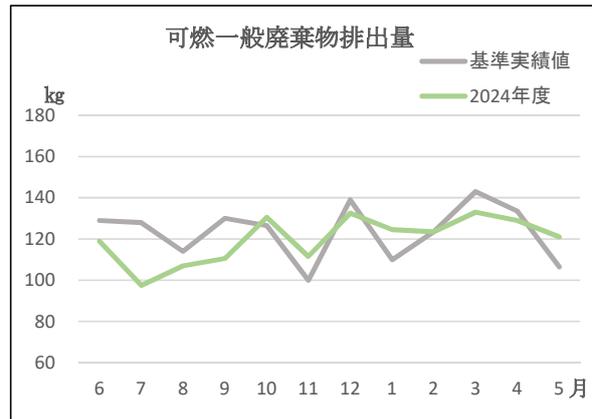


7) 可燃一般廃棄物の排出量の削減

可燃一般廃棄物の排出量に関する環境経営目標は、基準年実績値と同値とし1,483kgと設定した。

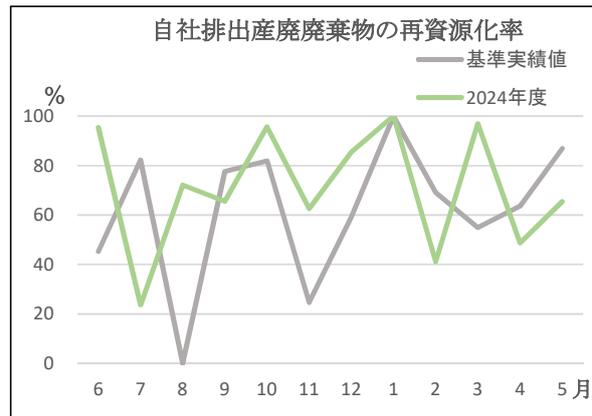
実績は、対目標値比 2.9%削減の1,440kgで目標を達成することができた。

分別等、日々の取り組みの成果である。



8) 自社排出産業廃棄物の再資源化の促進

自社排出産業廃棄物の再資源化の環境経営目標は、基準年実績値の再資源化率61.2%に対し、1.0%向上の62.2%の再資源化を図ることを目標と設定した。実績では、作業現場での分別等の努力により、12.2%向上の74.4%で目標を達成することができた。



9) 資格取得の推進

環境経営目標に業務上で必要と認められる資格等について、3人の資格取得を目標とした。結果として2資格で計3人が取得し、目標を達成することができた。

また、3つの技能講習、2つの特別教育に計9名が受講し、修練に努めた。

今後も資格取得を尚一層、推進します。

10) 建設現場における環境への配慮

環境経営目標には未設定ですが、常に環境に配慮した工事の実施に努め、今後も継続して取り組みます。

11) グリーン購入の推進

環境経営目標には未設定ですが、積極的な購入を今後も継続して取り組みます。

6. 環境経営計画及びその取組結果とその評価

環境経営計画を下表に示しました。

環境経営計画の実施状況を年4回、5段階評価により点検を行っており、その評価点の平均を下表に示しました。

【評価基準】

5：達成されている 4：ほぼ達成されている 3：やや達成されている 2：不十分である 1：達成されていない

項目	環境経営目標	環境経営計画	点検結果			
			総務部門	管理部門	環境整備部門	
活動の管理		エコ安全ドライブの周知	5.0	-	-	
		運転記録簿の管理	4.0	-	-	
		安全運転教育の実施	5.0	-	-	
		安全運転管理者講習会の受講	5.0	-	-	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	空調設定温度 (夏季/冬季 28℃以上/20℃以下)	4.8	-	-	
		外出時などパソコンのモニターの電源OFF	4.3	-	-	
		昼休み、残業時、外出時など不要照明のこまめな消灯	4.0	-	-	
		照明器具見直し (取り外し、人感型化、高効率化、LED化等)	5.0	-	-	
	灯油使用量の削減	灯油暖房温度設定20℃以下	5.0	-	-	
	ガス使用量の削減	ガス湯沸し器の使用節約	5.0	-	-	
	ガソリン車両及び軽油車両の燃費向上	エコ安全ドライブの実践	急発進・急加速を避ける。	-	5.0	5.0
			ふんわりアクセルを心掛ける。	-	5.0	5.0
			シフトアップは早めに、シフトダウンは遅めにする。	-	5.0	5.0
			一定速度の走行をする。	-	5.0	5.0
			経済速度での走行をする。	-	5.0	5.0
			不要なアイドリング運転の防止	-	4.0	4.0
			過度な空調の使い方をしない。	-	5.0	5.0
日常管理	タイヤ圧を適正に保つ	-	5.0	5.0		
	エンジンオイルの適正な管理	-	5.0	5.0		
	ブレーキエアタンクの水抜きを怠らない。	-	-	5.0		
作業管理	車両の走行は最短経路を選択	-	5.0	5.0		
	運転記録簿の記帳	-	4.0	4.0		

項目	環境経営目標	環境経営計画	点検結果		
			総務部門	管理部門	環境整備部門
水道使用量の削減		蛇口付近への節水シール貼付	5.0	5.0	5.0
		手洗い水使用の無駄の排除	5.0	5.0	5.0
		水漏れがないことを定期的に確認	5.0	5.0	5.0
		洗車ホースへのストッパーの設置と使用	-	5.0	5.0
		積極的に地下水揚水ポンプ(地下水)を活用する	-	5.0	5.0
一般廃棄物(可燃物)の排出量の削減と再資源化の促進		両面コピーの徹底 (片面コピー済の裏面使用)	5.0	-	-
		その他紙の分別再資源化の徹底	5.0	-	-
		分別による排出量の削減と再資源化に努める (金属・古紙・ダンボール・ペットボトル)	5.0	-	-
化学物質の適正使用及び管理		購入のチェックと毎月末の棚卸	-	5.0	-
無人航空機による農薬散布業務における環境への配慮		計画的な散布と農薬の適正使用により、土壌や水質の保全に努める	-	5.0	-
建設現場等における環境への配慮		省エネ運転、低騒音、低振動型建設機械の使用に努める	-	5.0	-
		建設発生土の場内再利用、再生土の利用に努める	-	5.0	-
超高圧水による研り業務における環境への配慮		ポンプユニットの省エネ運転に努める。	-	-	5.0
		事前の養生等により、研りガラや濁水の飛散・流出の防止に努める。	-	-	4.8
廃棄物(一般・産廃)の排出量の削減と再資源化の促進		分別による排出量の削減と再資源化に努める (金属・廃プラ・ダンボール・ペットボトル)	-	4.0	4.0
建設現場の廃棄物の排出量の削減と再資源化の促進		分別による排出量の削減と再資源化に努める (金属・廃プラ・陶器・ガラス・ダンボール・木くず・紙くず・石膏ボード)	-	4.3	-
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進		排出事業者に対して処理委託先について、再資源化を行う業者を推奨することに努める	-	-	5.0
グリーン購入の推進		グリーン商品の積極的な購入	5.0	-	-
資格取得の推進		積極的な資格取得の推進	-	5.0	4.0
平均			4.8	4.8	4.8
			4.8		

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の遵守状況を自ら点検した結果、下表のとおり全て遵守していることを確認しました。
 なお、法令違反等について行政当局からの指摘や指導、住民等からの苦情や訴訟もありません。

環境法規	適合状況	環境法規	適合状況
家電リサイクル法	適合	新潟県(市)浄化槽保守点検業者の登録に関する 条例	適合
小型家電リサイクル法	適合	建築物における衛生的環境の確保に関する法律	適合
建設業法	適合	新潟県産業廃棄物の適正な処理の促進に関する条例	適合
建設リサイクル法	適合	新潟県生活環境の保全等に関する条例	適合
自動車リサイクル法	適合	新発田地域広域事務組合火災予防条例	適合
水質汚濁防止法	適合		
浄化槽法	適合		
航空法	適合		
農薬取締法	適合		
毒物及び劇物取締法	適合		
PRTR法	適合		
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	適合		
労働安全衛生法	適合		
騒音規制法	適合		
振動規制法	適合		
大気汚染防止法	適合		
石綿障害予防規則	適合		
フロン排出抑制法	適合		
オフロード法	適合		

8. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

2024年度の環境経営の取り組みについて、代表者による全体の評価及びこれを踏まえた指示事項は以下のとおりです。

	点検項目	改定の必要性	指示の内容
見直しに係る指示事項	環境経営方針	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	現行の環境経営方針を維持し、取組むこと。
	環境経営目標	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	現行の環境経営目標を維持し、取組むこと。
	環境経営計画	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	現行の環境経営計画を維持し、取組むこと。
	環境経営システム	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	環境経営システムマニュアル(初版)の運用に努めること。
	環境経営実施体制	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	現行の実施体制を維持し、更に全員参加を進めること。
代表者コメント	<p>全体の評価</p> <p>昨年度は、電力の使用量の削減・ガソリン車両、軽油車両(強力吸引車・他作業車)の燃費の向上・受託、自社排出産業廃棄物の再資源化の促進の計6項目が目標を達成できなかったが、今年度は昨年度と同項目ではあるが、ガソリン車両、軽油車両(強力吸引車)の燃費の向上・受託産業廃棄物の再資源化の促進の計3項が未達成となった。</p> <p>現状で厳しい点多々あると思うが、現行の取組みを維持しながら、目標達成に向けた努力を願いたい。</p> <p>【未達成となった項目について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ガソリン車両、軽油車両(強力吸引車)の燃費向上 業務内容、作業条件によって影響を受けると思われるが、目標達成に向け努力を願う。 受託産業廃棄物の再資源化 中間処理業者の処理・処分の形態の変化が、再資源化の推進に影響を与えている。 今後の推移を見守りながら、環境経営目標の見直しの検討が必要。 <p>指示事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 現行の取組みを維持しながら、目標達成に努力すること。 環境経営目標には設定しないが、作業用用水(地下水)の使用量について把握すること。 資格取得を積極的に推進すること。 環境経営目標には設定しないが、建設現場では環境に配慮した工事の施工、グリーン購入では積極的な購入に努めること。 		

9. 次年度の環境経営目標

次年度(2025年度)の環境経営目標については、P 5 に記載のとおりです。

10. 次年度の環境経営計画

次年度(2025年度)の環境経営計画は、本年度(2024度) P 11、P12 に記載の同計画を継続して実施します。